

(4) ウ メ

主要病虫害別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病虫害の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病虫害名 (病原体)	農薬によらない防除
かいよう病 (<i>Pseudomonas</i>)	①防風垣を設置する。 ②発病枝を切り取り、処分する。 ③ほ場内の排水を良好にする。 ④適切な肥培管理に努める。 【参考事項】 枝、葉、果実のいずれにも発生するが、特に果実に発生しやすい。 前年伸長した新梢の枝病斑や皮目、落葉痕などに潜伏感染して越冬する。発病適温は 12℃前後である。
黒星病 (<i>Cladosporium</i>)	①病枝を切り取り、処分する。 ②樹勢を旺盛にし、通風、採光を良くする。 【参考事項】 枝上の病斑組織内で菌糸の形で越冬する。果実での潜伏期間は約 30 日と長い。
灰色かび病 (<i>Botrytis</i>)	①果実上の残っている枯死花弁、発病花は早期に取り除く。 ②枝の過繁茂を避け、園の通風を良くする。 ③豊作年は摘果に努める。 【参考事項】 雑草を含め野菜、花き、果樹など多くの植物に寄生し、それらの罹病植物が伝染源となる。菌糸の生育、胞子の発芽適温は 20℃前後である。
ウメシロカイガラムシ	①越冬期にワイヤーブラシなどで削り落とす。 【参考事項】 雌成虫で越冬する。幼虫発生期は5月上旬～6月上旬、7月下旬～8月中旬、9月中旬～10月中旬の3回である。
コスカシバ	①冬期、虫ふんを見つけたら幼虫を捕殺するか、上から小槌などで圧殺する。 ②春先に虫糞噴出箇所を削り取り、捕殺する。 【参考事項】 幼虫で枝幹の加害部で越冬する。成虫は年1回の発生で、5～10月まで長期間発生し、5月と9月が発生ピークとなる。
アブラムシ類	【参考事項】 冬寄主の芽の周囲、その付近の小枝で卵で越冬する。 発芽期から夏寄主に移住するまでに1～2回の発生のピークがある。